

2008年4月21日

「木粉とプラスチックを混練、成形した複合材の名称、略称」に関して

日本木材学会では表記材料の名称に関して、2007年7月17日付けで日本木材学会内の「木材の化学加工研究会」に検討を諮問していたところ、検討委員会（「木材・プラスチック複合材名称検討委員会」：別紙）を組織していただき、答申を得ました。日本木材学会としては、この答申結果を踏まえて、今後この材料の名称として、以下に示す答申結果の用語を使うことを推奨したいと考えています。この方針に対してパブリックコメントを求めたいと思いますので、ご意見がある方は6月末日までに日本木材学会事務局まで、メールでご連絡ください。

事務局メールアドレス：office@jwrs.org

記

近年、木粉と熱可塑性樹脂を混練、押出（射出）成形した複合材料が製造され、市場に出回るようになってきた。本材料の名称として、「木材・プラスチック複合材あるいは複合材料」、「木粉・プラスチック複合材あるいは複合材料」などが使われている。また、その略称として、「ウッドプラスチック」、「木プラ」、「WPC」、「人工木」などが使われている。

一方、固体木材に樹脂モノマー等を含浸、重合させて製造する複合材料が従来から市場に提供されてきた。この材料には、名称として「木材・プラスチック複合体あるいは複合材料」、略称として「WPC」が使われてきている。

このように、製造法、さらには性能の異なる材料に、同一あるいは類似の名称、略称が使われている。このことが市場に混乱をもたらす恐れが懸念され、両者を区別する適切な名称、略称が求められる。

上記について検討、議論を結果、以下のような提案を行う。

1) 両材料の名称

両材料について、下記の名称を提案する。

[名称]

含浸型

混練型

「木材・プラスチック含浸複合材」 — 「木材・プラスチック成形複合材」

ただし、英語名称については海外調査を充分に行う必要があり、今回は提案を行わない。

2) 両材料の略称

含浸型、混練型とも WPC の略称を用いる。

(欧米では混練型についても WPC の略称が一般に使われており、異なる略称では混乱を生じる。また、国内の営業活動における取引は商品名、ブランド名で行われることが多く、同一略称であっても取引上の混乱を生じないものと考えられる。)

略称は WPC とするが、両材料を区別するため、接頭語を付ける。

(論文投稿、公用文書、各種報告書等において混乱を避けるため、区別できる略称にすることが必要である。)

[略称]

含浸型

混練型

「含浸型 WPC」 — 「混練型 WPC」

ただし、通称略名として混練型について「木プラ」も使用可とする。

以上